

- [Global Press](#)

## かわいい子にはサーカスでの修行を！

[川崎陽子](#)

2013年06月25日

子どもたちにサーカスの曲芸を教える——こんなユニークな活動がベルギーで人気を集めている。ピエロはもちろん、綱渡り、皿回し、ボール乗り、ガラスの破片や針山の上に立つ、炎を口の中に入れるなど、本格的な曲芸を学ぶプログラムだ。

今年も復活祭休暇中の月曜日から金曜日まで、9歳から14歳までの子どもたち80名が参加し、一日6時間の修行を重ねた。最終日の夕方には、サーカステント内で成果を披露し、400の座席に座りきれない超満員の観客から大喝采を浴びた。



曲芸を披露する子どもたち

子供たちに手ほどきをしたのは、ビアガー・コッホ団長が率いるドイツの Soluna サーカス。主にドイツ、オーストリアで6歳から20歳くらいまでの青少年対象のこのプログラムも、毎年引っ張りだこの人気で、すぐに予約が埋まってしまう。

週末や休暇中のプログラムだけでなく、学校が普通の授業の代わりに、一週間のサーカス修行を企画して申し込むことも少なくない。その場合は、まず教師たちの訓練をし、翌日から協同で指導する。テント設営には保護者たちも協力する。

学校がサーカスを授業の一環として取り入れる背景には、社会教育学修士で19年前までは青少年行政に携わっていたコッホ団長が語る次のような哲学がある。

「成長とは、絶え間なく新しい人生計画に取り組むことです。何が適切なのかを判断できる、しっかりとした人格をもたらすのは、健全な自意識です。子どもサーカスではこの自意識を、1つの社会的枠組みの中で遊び感覚で伸ばします。課題、きまり、そして賞賛は、将来待ち受ける挑戦を受けて立つ、強さを育むのです」

このプログラムがベルギーで行われることになったきっかけは、偶然の出来事だった。ドイツ語圏にある地方自治体で青少年活動を支える社団組織は、学校の長期休暇中プログラムの企画も行う。この組織に勤めるヴェーナー・カルフさんが、たまたまドイツの首都ベルリンの学校で、コッホさんのサーカス修行プログラムを見た。カルフさんは、わずか一週間で子どもたちが目を見張るほど上達することに感動し、是非ベルギーでも企画したいと考えた。



サーカスのテント

せっかくのサーカス修行だから本物のテントを借りたいが、費用は週当たり 7500 ユーロ（約 100 万円）。一人でも多く子どもたちに体験させるためには、参加費は 50 ユーロ（一日当たり約 1300 円）に抑えねばならず、とても手が届かない。

そこで、カルフさんはフィリップ王子の「協同で架け橋を作ろう」というプロジェクト基金に申請し、テントを借りる費用を助成してもらうことにした。この基金は、公用語が 3 つ（フランス語、オランダ語、ドイツ語）あるベルギーで、子どもたちによる言葉の壁を越えた協同活動を支援するためのもの。多言語の活動であれば、助成金が供与される。カルフさんが勤める自治体は、異なる 3 言語圏の境界に位置するので、隣接自治体からも子どもたちの参加を呼びかけ、異なる言語の 80 名の子供が参加した。

サーカス・キャンプの指導者は、コッホ団長を含めた 3 名のサーカス団員、および各言語圏から 5 名ずつ募集しコーチとして二日間の研修を行った 15 名の若者だ。テントの設営などの裏方仕事は、開催地地元のボーイスカウトのメンバーがボランティアで手伝った。

案ずるより生むが易し。言葉が通じない子どもたちも、一週間でしっかりと意思疎通をはかり、すっかり打ち解けていた。



曲芸を披露する子どもたち

いくら安全に配慮していると言っても、曲芸にはどうしても危険が伴う。その点を問うと、カルフさんはこう語った。「普通に道路を歩いているだけでも危険はつきものです。そんな危険なことをさせて責任をとれるのかと言われても、私の責任でチャレンジさせますよ。事務所に座っているだけで実際に行動しなければ意味がないのです」

「動くのは楽しいよ  
自分で思うより、もっと多くのことができるよ  
みんなと一緒にすれば成功するよ  
勇気を出せば報われるよ  
きみたちは、このサーカスの輝く星だ！」

サーカス団のパンフレットに書かれたこれらの言葉を、身を持って体験した子どもたち、そして観客としてすっかり魅了された親たちは、キャンプ終了後に早速、「来年もまたぜひ参加したい、参加させたい」という希望を、コッホ団長やカルフさんに伝えていた。

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.